迅速な血液製剤準備のために

～高頻度抗原に対する抗体（抗 JMH 抗体）を経験して～

◎石橋 賢太郎[1)]、佐藤 慧一[1)]、椿 将志[1)]
一般社団法人 巨樹の会 新武雄病院[1)]

【はじめに】抗 JMH 抗体は赤血球表面に高頻度に存在する john Milton Hagen(JMH)血液型抗原に対する抗体である。高齢者に検出されることが多く、加齢に伴った後天的な JMH 抗原減弱によって産生すると考えられている。高頻度抗原に対する抗体であるため、通常の間接抗グロブリン試験ではパネル血球との反応は全て陽性となり、迅速な血液製剤の準備に支障をきたすことがある。今回の症例を経験し、より素早く安全に輸血ができないかを検討した。

【症例】89 歳女性　妊娠歴、輸血歴不明
血液型 AB 型 Rh 陽性

尿路感染症で入院後右人工関節周囲骨折があり、RBC 輸血 2 単位のオーダーがあった。

【検査結果】不規則抗体スクリーニング検査の全ての血球で PEG クームスにて(W+~1+)の凝集を認め、RBC2 単位の交差適合試験も主試験にて PEG クームス法で(1+)であり、直接クームス法も(1+)であった。DT 解離試験と 60 分クームス法を行い、解離液にてスクリーニング検査を行うが、すべてのパネル血球で（W+~1+）の凝集を認めた。当院では抗体の同定の検査は行えないため、日本赤十字社九州ブロック血液センターに同定を依頼し、抗 JMH 抗体と同定された。

【経過】抗 JMH 抗体が検出されたが、臨床的意義がほぼないため抗原陰性血を準備する必要はなく、輸血オーダーがあった 2 日後に輸血が施行された。溶血性副作用を認めず、輸血効果が得られた。

【まとめ】今回の症例では高頻度抗原に対する抗体の知識が乏しく推測することができなかった。当院には確立された輸血部門はなく、認定輸血検査技師がいるわけでもない。特に休日帯や夜間帯は 1 人で業務を行っていることが多く、不規則抗体が陽性になった場合の対応に苦慮することも少なくはない。今後はスタッフ間での情報共有や自己研鑽の他に、不規則抗体陽性時のフローチャート作成や新たな検査試薬の導入などを行い、迅速で安全な輸血につなげていきたい。

連絡先：0954-23-3111(内線 9261)